

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち



March

S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

March 2026 vol.143

◆ 蒲原地震山

所在地：静岡県静岡市清水区蒲原東（みはらし公園）

交通：JR 東海道本線「新蒲原」駅北東約2km

富士川は、長野県と山梨県の県境、南アルプス甲斐駒ヶ岳の北西に位置する鋸岳に発し、流域は長野県、山梨県、静岡県にまたがり、駿河湾に注ぐ一級河川です。流域の約90%が山地となっており、河床勾配が急で、最上川、球磨川と並び日本三大急流河川の一つとされています。下流部の勾配も急で、三角州や平野が形成されず、扇状地が直接海に接する形になっています。富士川下流部の治水の原点は、慶長14(1609)年に、徳川家康が伊奈忠次に命じて作らせた備前堤で、元和7(1621)年には、古郡氏が2本の出堤を築いたものの、流れを制御することはできませんでした。その後、古郡氏は、全長2.7kmに及ぶ雁堤の築堤に着手し、3代かけて1674年に完成させます。これによって、富士川の流れは西側に寄り、東岸には加島五千石と呼ばれる広大な新田が開けました。一方、西岸の岩淵、中之郷、蒲原などの地域は、洪水や浸食の被害を被ることとなりました。

嘉永7(1854)年、安政東海地震がこの地域を襲います。安政東海地震は南海トラフの地震ですが、このとき、富士川下流部を横断する入山瀬断層が連動して活動しました。入山瀬断層は、西側が隆起する活断層で、断層活動により、富士川の西岸地域一帯が大きく隆起し、富士川は再び流路を東に変え、西岸地域では陸地の面積が増加しました。この隆起の名残とされるのが蒲原地震山で、国土地理院明治22年発行の地形図・蒲原にも蒲原地震山と明記されており、現在は地震山下という字名が残っていて、みはらし公園に

はその地名碑文が残されています。耕地が増えた蒲原では、農民の間で“地震さん地震さん、わたしの代にもう一度、孫子の代には二度も三度も”という地震を歓迎する歌が歌われたとも伝わっています。

ところが、近年の研究では、安政東海地震で富士川西岸の土地が隆起したというのは当時の人たちの勘違いであり、入山瀬断層も活動していなかったとの説が示されています。関連する地域における地殻構造探査や地質調査、古文書等の史料調査を行った結果、西岸の土地が隆起した事実を立証するデータはなく、実際の現象としては、地震により富士川の上流で白鳥山が決壊したことで川の水が堰き止められ (vol.103、2022.11)、流路が以前の東寄りになるとともに、富士川の中洲であった地震山のあたりでは、減水により河床が露出し、水がなくなって立てるようになった河床から中洲を見上げたところ山のように見えて、土地が隆起したと勘違いされたものと結論づけられています。

地震発生には様々なパターンが想定されますが、いずれにしても、いつどのような地震が発生しても対応できるように、着実に地震への備えを進めておくことが大切であることには変わりありません。



地震山下の地名由来が記された碑 (提供：(一社) 中部地域づくり協会)

中部災害アーカイブス「地震・大津波の痕跡、教訓から学ぶ」の記事 (http://www.cck-chubusaigai.jp/jishin_syousai.php?id=9) もぜひ併せてご覧ください。



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

●宗徳寺 (vol.62,2019.6)

所在地：蒲郡市一色町

交通：JR 東海道本線「三ヶ根」駅南約2km

蒲郡市一色町の宗徳寺は、山梨県の身延山久遠寺を総本山とする日蓮宗の寺院で、500年以上の歴史があります。この宗徳寺の境内に、昭和20(1945)年の三河地震の断層活動により引き起こされた地割れ跡が保存されています。

三河地震は、三河湾の中央から北に向かい、西に湾曲しながら幸田町内へ至る深溝断層と、吉良町から西に向かい、北に湾曲して矢作川付近まで至る横須賀断層によってもたらされたM6.8の内陸直下型地震で、死者2,306名、住家の全半壊23,776戸の被害が発生し、蒲郡では、特に形原町、西浦町に被害が集中、237名の方が命を落としています。

深溝断層は、陸地部分では形原町音羽川河口より北進し、宗徳寺のある一色町から幸田町深溝まで進み、約90度西

へ曲がりながら三ヶ根山を迂回し、逆川の北方に至っており、陸地部分での延長は約9kmに及んでいます。

宗徳寺は深溝断層のすぐ傍に位置しており、断層活動により境内に地割れが発生しました。地震当時の様相を物語るこの地割れ跡は、昭和51年に市の天然記念物に指定され、指定時の延長は41mにも及びました。その後、堆積物などにより埋没が進んだため、平成15年3月には、堆積物の除去による復元と見学コースの整備が行われています。

また、境内には地震により被災した番神堂が改修を経て現存していますが、番神堂は、地震による地面の隆起で1.5mも持ち上がっており、後に階段が設置され、1.5mの段差を階段を利用してアクセスするようになっています。



◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.62 (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

★静岡まつり

静岡まつりは、駿府で徳川家康公(大御所)が家臣を連れて花見をしたという故事に倣い、4月最初の金曜から日曜に、駿府城公園と周辺を中心市街地で開催されるまつりです。(2026年は4月3日(金)から5日(日))

大御所の花見を再現した約400名の大御所花見行列をメインに、家臣団結成の儀を表す前夜まつり、大御所の呼びかけに応じて駿府城を目指す駿



府登城行列、宴を盛り上げる夜桜乱舞・城下さくら踊り、戦国時代の終焉を告げる手筒花火など、見どころ豊富です。

約500本のソメイヨシノが見頃を迎えるメイン会場・駿府城公園内では、静岡の民族芸能や踊りを披露する駿府大演舞場、飲食ができる駿府屋台村など、多くの催しが行われ、城下町の雰囲気味わいながら花見が楽しめます。

～宿場町を巡る～

かんばらしゆく
蒲原宿は、日本橋から



photo ACより

15番目の宿場町で、高波により1701年に現在の地に移してから、現在もその町割りをとどめています。

宿場町は静岡県内で唯一、歴史国道として認定されており、安政東海地震で一部倒壊し、1855年に再建された商家・志田邸や、町家建物を洋風に改築した和洋折衷の歯科医院・旧五十嵐邸などが保存され、レトロな街並みを楽しむことができます。

●ブレイクタイム●

♪ トライアルパーク蒲原

トライアルパーク蒲原は、旧蒲原中学校跡地を活用した複合体験施設で、富士山と駿河湾を望む芝生広場でのキャンプやBBQ、サイクリング、ドッグランなどが楽しめます。目玉のひとつが富士山かんばら気球フライトで、富士山と駿河湾の絶景を空から望むことができます。全面ガラス張りのフィンランド式トレーラーサウナも人気で、こちらも富士山を眺めながら楽しむことができます。この他、大きな焚火を囲んで星空を楽しむ焚き火&キャンプイベントなども開催されています。



トライアルパーク蒲原HPより

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災とSeeing』のホームページ (<https://www.saitoseeing2020.jp/>) をぜひご覧ください。

(発行：減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 2026年3月)